



大分県宇佐市の寺院墓地に建立された、庵治産地の最高の技術を結集してつくられた庵治石の五輪塔。磨きにとことんこだわった(有)翼石材の『和乃塔』仕様でつくられている。外柵は大島石でつくられた

# 究極の磨きで仕上げた庵治石五輪塔「和乃塔」 故人の人柄伝える最高の素材・技術で

## (有)佐藤石材店(福岡県大野城市)が建立

最近流行の墓石を見慣れた人にとって、一風変わったデザインの五輪塔がどのようなお墓なのか、その意味を知る人はまずいない。しかし故人やご先祖様の成仏・供養を最も重視するのであれば、五輪塔はこの上ない「最高の墓石」といえるだろう。その有難い五輪塔をお客様が建立できるか否か、それは石材店の知識・経験・意欲次第である。お客様がどれだけ「最高の墓石を建てたい」と思っても、その存在すら知らなければ建てようがないからだ。大分県宇佐市の養徳禅寺に建立された高牟禮家のお墓は、そうした意識の高い施主と石材店との結びつきから生まれたものだった。

高牟禮家のお墓は、三年前の二〇一六年二月に七十二歳で亡くなられた高牟禮文成氏を供養する目的で建てられた五輪塔である。故人は宇



左側の女性2人が故人の奥様・高牟禮エミ子さんと長女・慶子さん。  
右側2人が佐藤社長(右)と松山さん

佐市に本社を置く(株)高牟礼建設の創業者で、土木・建築から住宅、設備関連まで一代で各種事業を拡大し、地元の有力企業に成長させた実業家だった。また故人の父親が住職だったこともあって、神社仏閣関連の仕事にも意欲的で、寄進なども積極的に行っていた。

しかも気さくながら面倒見のよい性格で、人



【2点】庵治産地で撮影された五輪塔上部と反花のアップ部分。平面は手動研磨機を使用し、R面や反花などの部分は、通常の倍以上の手間と時間を掛けて昔ながらの手擦りで仕上げた。これにより艶・質感・耐久性とも最高級の「究極の磨き」を実現。庵治石ならではの斑がキレイに浮き出ている



手動研磨機による研磨作業のようす



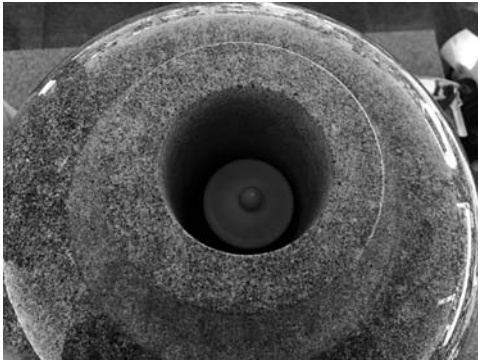
火輪の笠の部分は研磨パッドを使って手擦りで仕上げた

望も厚かった。愛車は日本全国でも数少ないドイツの高級外車マイバッハで、派手めなスーツ姿でドライブするのが好きだった。お酒はサントリーの高級ウイスキー『響』をこよなく愛し、療養中の自宅でも亡くなる直前まで飲んでいたという。

「そんな豪快なエピソードを持つ主人でしたが、何をするにしてもとことん本物にこだわり、他人と同じものは好まない性格でした」

奥様のエミ子さんはそう振り返る。

墓地は地元の養徳禅寺の敷地内にあり、故人の父、文孝さんが眠る無縫塔（卵塔）のすぐ隣に、一周忌までに建立することになった。ただしどのような墓石にするかは未定で、エミ子さんと娘さん二人、二代目・高牟禮善文社長が中心となって、親戚の松山欣彦よしひこさんが勤める(有)佐藤石材店（福岡県大野城市、佐藤文昭社長）に相談して決めることになった。



五輪塔の水輪内には写経が納められている。こうした作業に施主や遺族が関わることで、故人やご先祖様、お墓に対する思いが徐々に深まっていく



施工作業のようす。約1ヵ月近く泊り込んで行なわれた

石種は人づてに聞いた最高級石種「庵治石」でつくることを早々と決めていたが、デザインは「上品さを保ちながら、人目を引くような（ありふれたものではない）、少し派手な雰囲気」という故人のイメージに合うものがなかなか見つからなかった。

そうしたなか、庵治産地の(有)翼石材によって企画・商品化されている『和乃塔』に目が留まった。『和乃塔』は、ミクロ単位の細かな傷や歪みが残る自動研磨機は使わず、経年変化の影響

を最小限に抑えられる手動研磨機やエアーツール、あるいは砥石や研磨パッドによる手擦りで仕上げることにとことんこだわった商品で、それを五輪塔でつくることを提案すると、「故人のイメージにピッタリ」と同意してくれた。

さらに同社で実物大の図面を用意し、五輪塔がどのような意図で考案されたものなのか、その造形にどのような意味があるのか説明した「趣意書」を一緒に添えてお渡ししたところ、「これこそが故人に相応しい」と高牟禮社長をはじめ



【左】庵治大丁場石の会と(株)日本石材産業協会から発行された2つの産地証明書もお客様に渡された



文成さんの1周年に行なわれた納骨式の様子。手前の無縫塔には父・文孝さんが眠っている

め、ご家族全員が納得され、庵治石の五輪塔は『和乃塔』仕様で、外柵は大島石でつくることになった。その後、正式に契約書を交わし、発注から製作、施工まで半年ほど要したが、故人・施主の双方に満足してもらえ素晴らしいものが完成した。

「平面は手動研磨機を使用し、R面や反花などの部分はエア―工具とともに昔ながらの手擦りで、通常の倍以上の時間と時間をかけて丁寧に磨き上げました。機械では決して表現できない、艶・質感・耐久性とも最高級の『究極の磨き』ともいえる仕上がりになっています」

(有)翼石材の高橋晋也氏はそう述べる。

なおカロートは特殊な構造で、イタズラ等で開けられないように、一見どこから納骨するのかわからないように設計されている。通常正面にある納骨扉はなく、別の場所から納骨できるようにになっているという。

施工期間中は、佐藤社長と松山さんら従業員数名が一ヵ月近く泊り込みで作業を行なった。引渡しの際は、(社)日本石材産業協会の石材産地証明書と、庵治大丁場石の会が発行する庵治石

産地証明書も渡された。

さっそく墓地へ案内してもらうと、エミ子さんが穏やかな表情でお墓を見つめる姿がとても印象的だった。

「お陰様で、誰が見ても褒めてくださる、いいお墓ができました。お墓には写経も納めさせていただきました。故人もさぞかし喜んでのことでしょう。これからもずっと、私たちの手でしっかりお墓を守っていきます」

エミ子さんはそう話す。

お墓参りは、お彼岸やお盆、祥月命日などのほか、月命日も欠かさずお参りし、住職にお経をあげてもらっているとのこと。エミ子さんはじめ、ご遺族の皆さんにとってお墓参りは大切な時間であり、お墓がかけがえのないものになっている。

◎(有)佐藤石材店

福岡県大野城市川久保1-9-18

TEL092-504-5528

◎(有)翼石材

香川県高松市庵治町丸山6390-44

TEL087-870-3288